

滋賀県立大学と連携した取り組み

～地域教育プログラムに参加してきました！～

今回、滋賀県立大学・地域共生センターで特任講師をされ、また近畿財務局アドバイザリーを委嘱させていただいている「上田洋平」先生がご担当される「地域デザインA」講義に、当事務所若手職員が研修の一環として3日間参加させていただきました。



滋賀県立大学キャンパス



滋賀県立大学・上田講師

講義のテーマは、「いま、ここにあるめぐみを活かす地域デザイン」

滋賀県立大学の学生のほか、滋賀県庁の職員も参加され、フィールドワークを通じた地域の課題把握、地域再生に向けた課題解決策の検討・提案を行いました。

大津財務事務所の若手職員2名は、それぞれ「彦根市銀座街」、「大津ナカマチ商店街」のフィールドワークに参加。

商店街の建物オーナーの方や、商店を営む方々のご協力を得て、地域が抱える課題や今後の将来像をヒアリングし、学生や県庁職員とともに、課題解決策を議論しました。



最終日の講義では、地域別にグループワークを行い、課題解決策の提案内容を取りまとめて発表。

地域によって課題が異なる中、キーワードを付箋に書き出しながら徐々にイメージを具体化していき、各グループとも個性豊かな提案発表がなされました。



～若手職員の体験談～



フィールドワークを通じて、実際に商店街を歩きながらお店の方々と直接お話しすることで、地域の現状や抱えている課題について深く知ることができました。

一口に「商店街の課題」と言っても、店舗ごとに異なる背景やそれぞれが描く将来像があることを実感し、それらを汲み取りながら提案をまとめることの難しさと重要性を改めて感じました。

普段の業務ではなかなか触れることのない地域のリアルな姿に触れることができたことは、非常に貴重で有意義な経験だったと思います。

普段お話しする機会がない商店街の方と交流して、商店街の現状や課題について知ることができた貴重な体験となりました。

商店街といっても、地域によって抱える課題は様々で、特に彦根銀座商店街が持つ特有の様々な課題を知ることができ、またそれらの活用への地域の方々の期待を強く感じました。

土地・建物の活用は当局の業務とも関係性が強く、今後、国有財産に関する取組みの際に今回の経験を活かしたいと思います。



～編集後記～

地域の課題を把握し、理想とする将来像をイメージし、現在の取組みを考える…これは行政機関における政策検討・立案の過程に通ずるものがあります。

大津財務事務所としても、地域の課題やニーズの把握に努め、課題解決に向けて所内全体で何ができるかを考え、地域に貢献していきたいと思います。

